

小牧市の現状

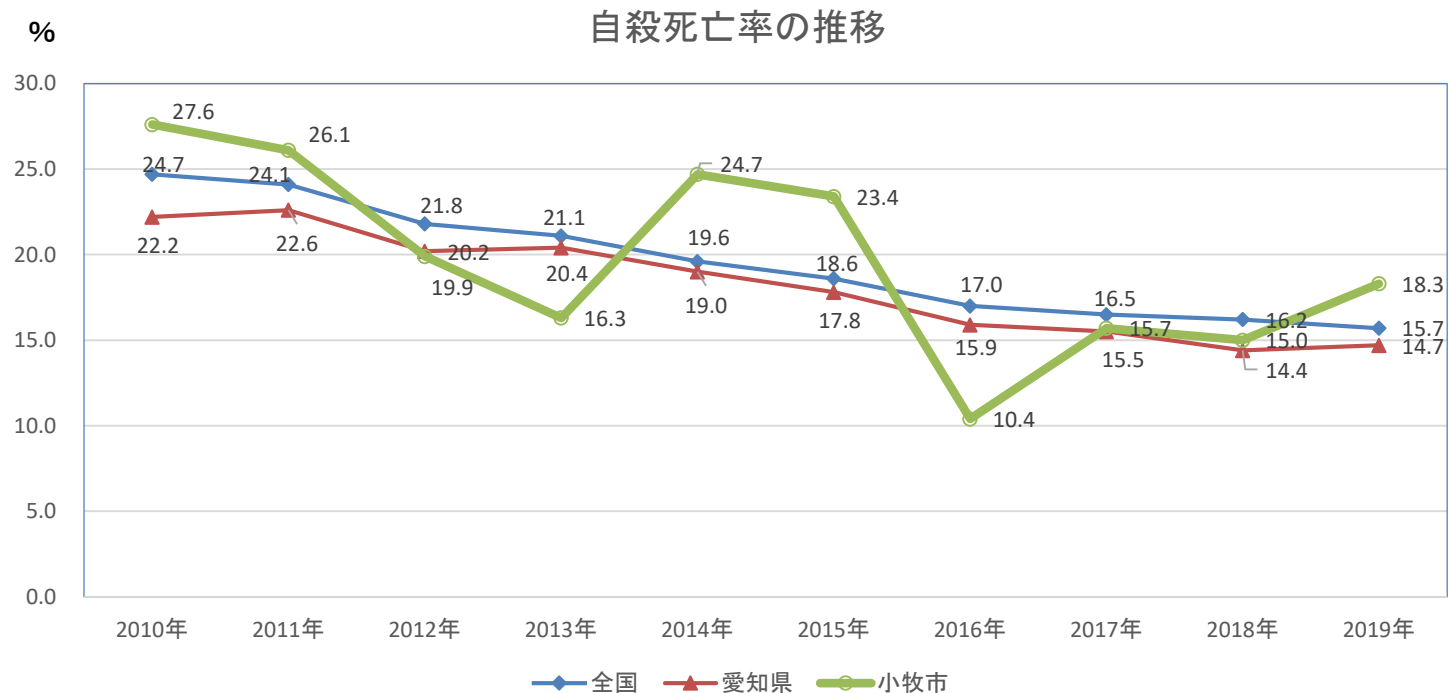
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

自殺死亡率の推移

単位：人口10万対

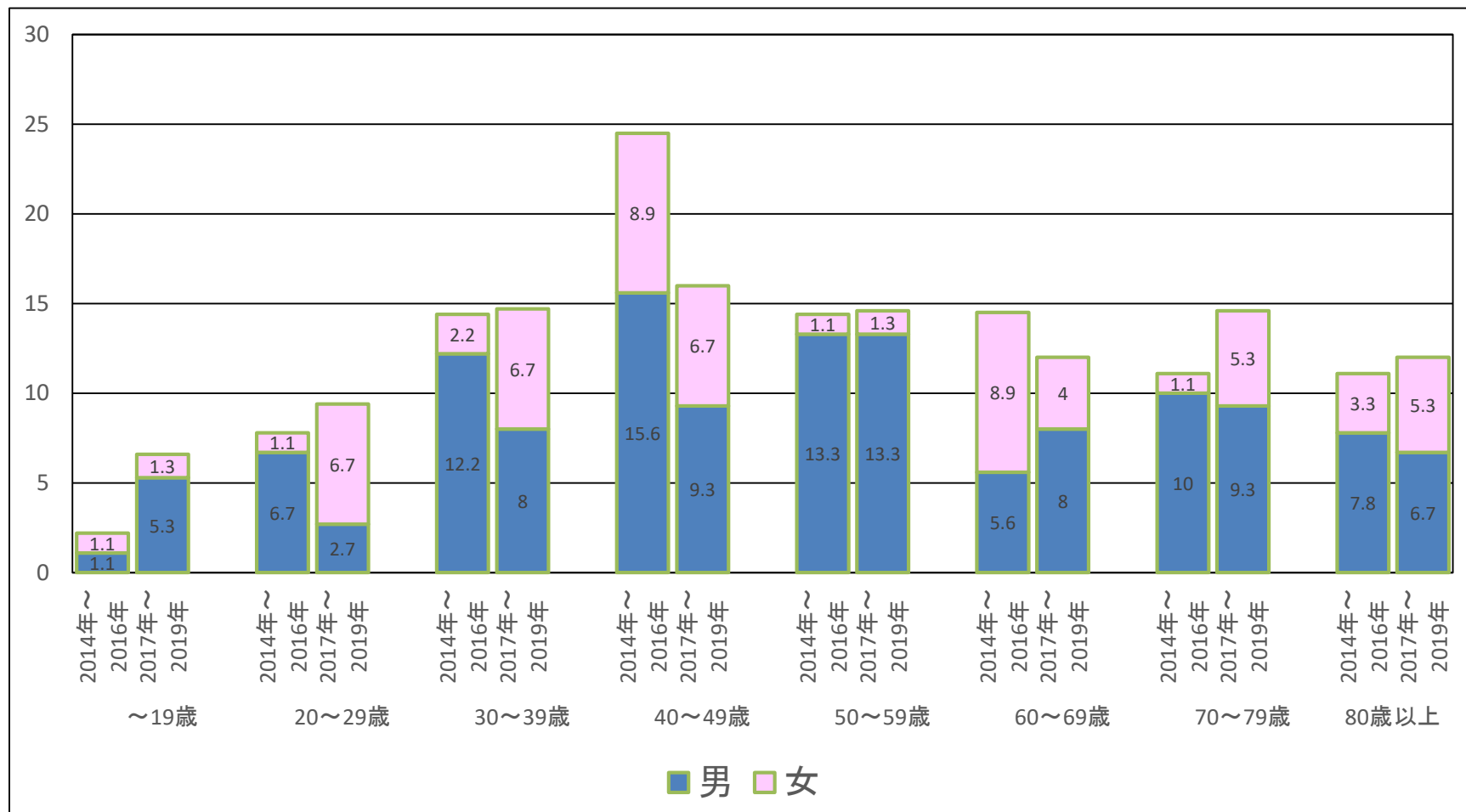
| | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全国 | 24.7 | 24.1 | 21.8 | 21.1 | 19.6 | 18.6 | 17.0 | 16.5 | 16.2 | 15.7 |
| 愛知県 | 22.2 | 22.6 | 20.2 | 20.4 | 19.0 | 17.8 | 15.9 | 15.5 | 14.4 | 14.7 |
| 小牧市 | 27.6 | 26.1 | 19.9 | 16.3 | 24.7 | 23.4 | 10.4 | 15.0 | 15.0 | 18.3 |

【人口10万対】



年代別・男女別自殺者の状況

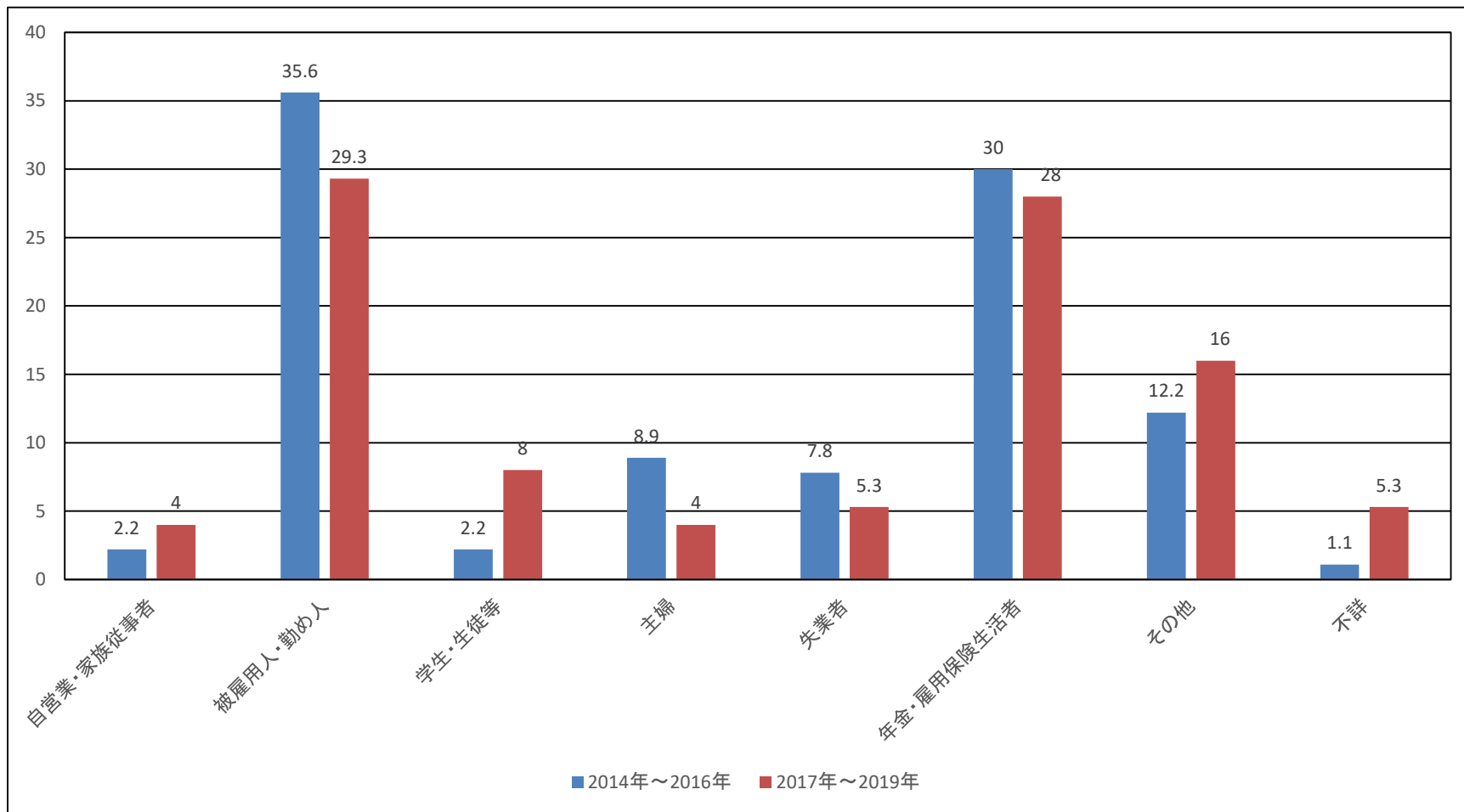
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」
(市町村・自殺日・住居地)より



- 年代別で見ると、40代の自殺者数の割合が最も高くなっている。10代が増加。
- 人数で見ると、2014年から2016年の3年間から2017年から2019年の3年間で男性は65人から47人へと減少。女性は、25人から28人とほぼ横ばい。

職業別自殺者の状況

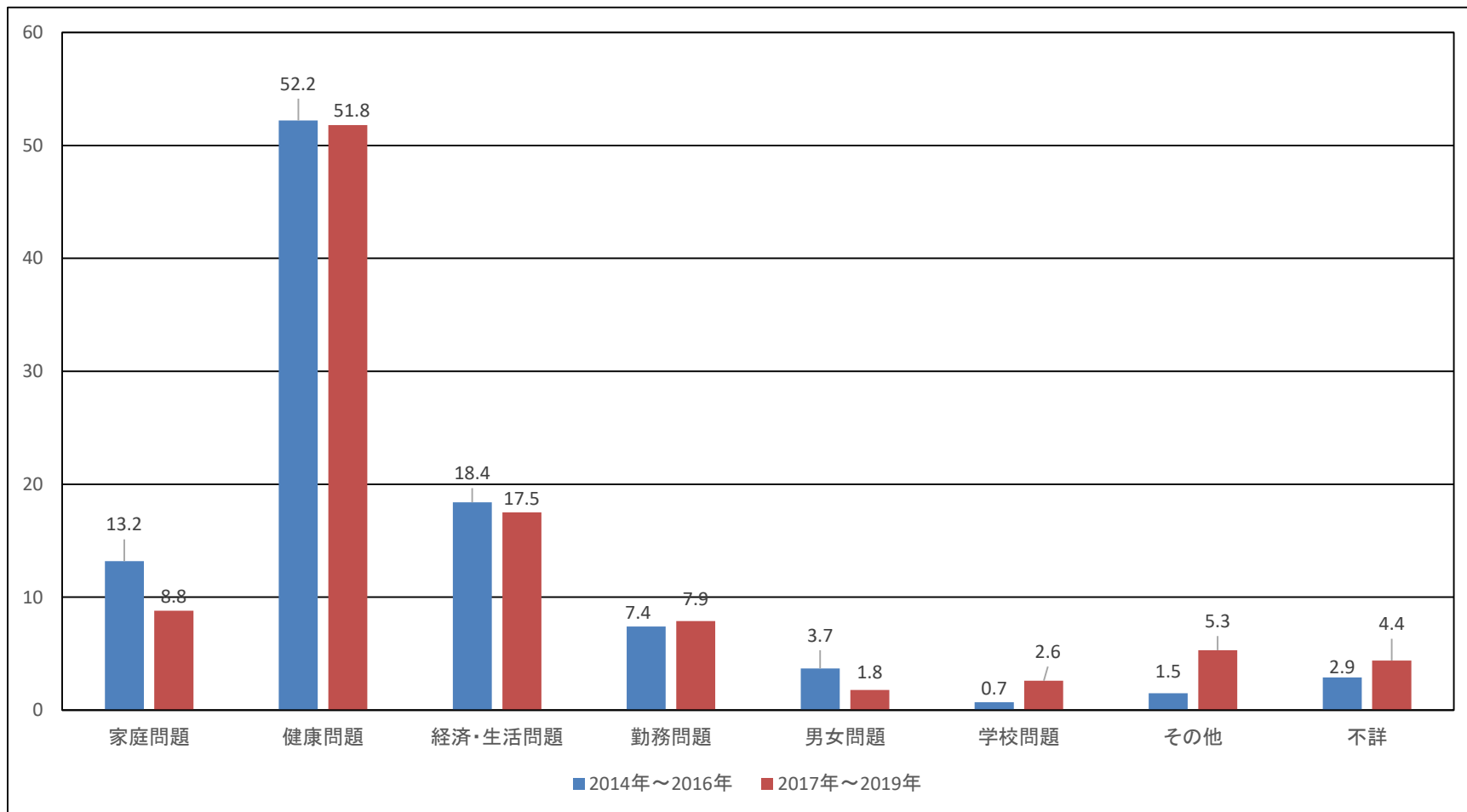
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」
(市町村・自殺日・住居地)より



●職業別では、「被雇用人・勤め人」や「年金・雇用保険者」の割合が高く、国や県と同じ傾向である。

自殺の原因・動機

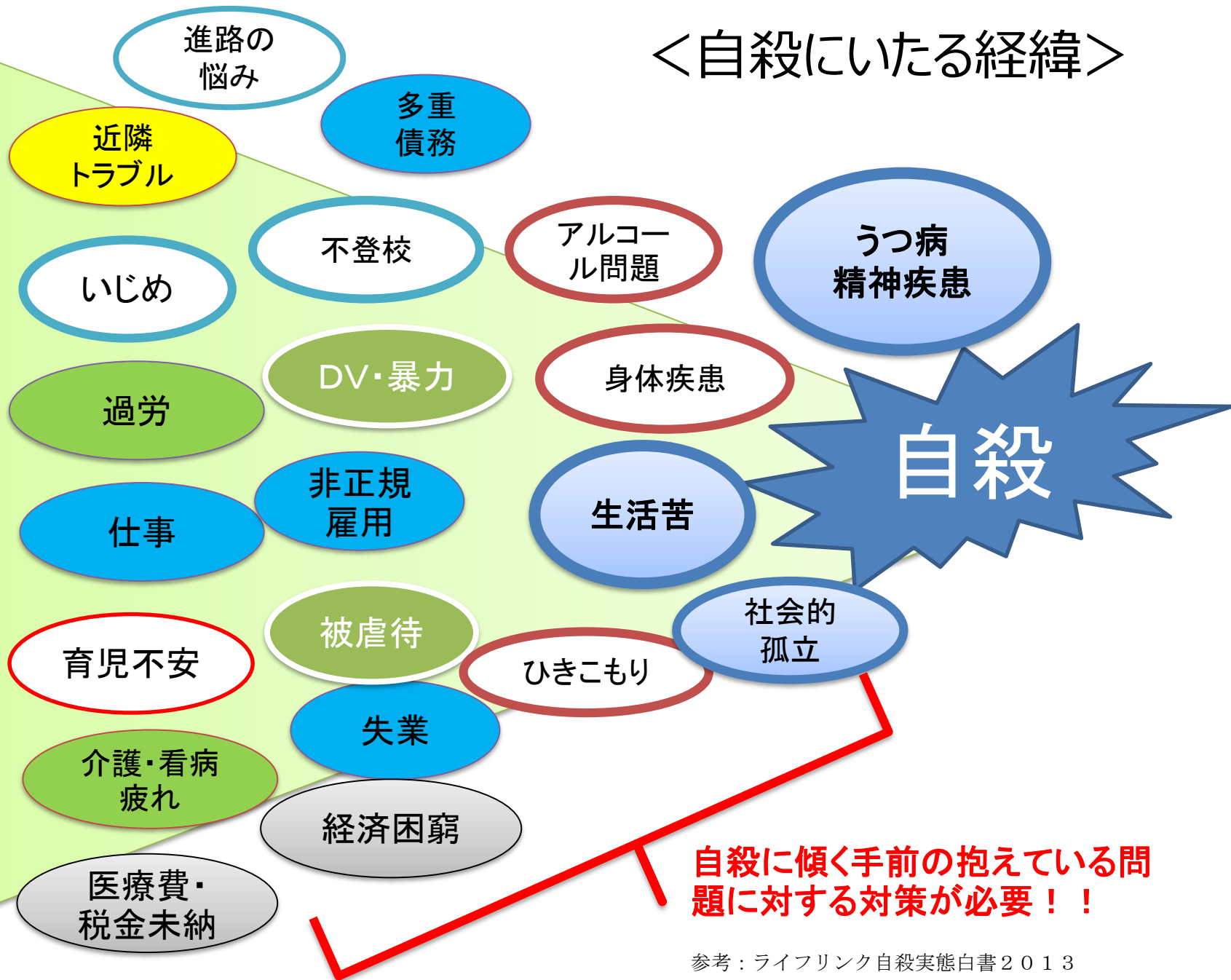
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」
(市町村・自殺日・住居地)より



- 原因・動機別で見ると、健康問題の占める割合が高く、次いで経済・生活問題となっている。

誰もが過している日常生活の場

<自殺にいたる経緯>



誰もが過している日常の生活の場

こどもとの遊び方がわからない

こどもの進路に迷ってしまう

わけもなく涙が出る。
眠れない。
飲酒量が増えた

育児不安

うつ病
精神疾患

残業多くて休めない。

仕事がなく収入がない。

生活苦

自殺

仕事

失業

経済
困窮

社会的
孤立

親の介護
どうしたらいいのかわからない。

介護・看病
疲れ

自殺に至るまでには「生きることの阻害要因」が平均4要因相互に関係しあっている。理由は一つではない。何気ない日常の問題が生きづらさにつながるため、本人の大変さ、生きづらさを感じた時に支援がはいることが自殺予防になる。

